

# 小 児 医 学

科目責任者 白 石 秀 明  
学年・学期 3 学年・3 学期

## I. 前 文

小児医学の特徴は、広範な臓器専門領域を含むこと、小児が成長発達過程にあるために、臓器や系統の障害が他臓器の障害を伴いやすく、全身的な視点に立つ必要があることである。小児医学について、小児科、小児外科、リハビリテーション科、放射線科の立場から講義される。さらに、循環器、呼吸器、脳・神経、血液・造血器、アレルギー・膠原病、腎・泌尿器、精神医学、救急医学などの専門分科でも講義される。

これらの講義のなかで、臨床的に必要な知識を、わかり易く、重点的に把握できるようにしたい。また、未来の社会の担い手である小児の健全な育成という立場で、小児に接し、その問題にアプローチする態度を育てたい。

## II. 担当教員

小児科学	白 石 秀 明
外科学（上部消化管）	小 嶋 一 幸
リハビリテーション科学	入 澤 寛
埼玉医療センター・小児科	高 谷 具 純

## III. 一般学習目標

遺伝的形質の発現と環境への適応のなかで進行するヒトの成長と発達、その過程のなかで起きる種々の障害の機構を理解する。これらの現象の生物学的本態のみでなく、広くその精神的、社会的側面をも理解する。

これらの障害の発生を予防する方法、治療する方法について、具体的な知識を獲得する。

実際に小児を診るときに、これらの知識が役立つように整理して把握する。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 成長・発達の過程を理解する。
- 2) 個体の特性の種類とその成立を理解する。
- 3) 小児の健康と疾病の発現過程における先天的要因、発達性要因、環境要因の役割と重要性を理解する。
- 4) 小児の健全な育成のための栄養・養護についての基本的知識を獲得する。
- 5) 小児に多発するか、特有の疾患の病態、診断、治療、予防についての基本的知識を獲得する。
- 6) 小児保健医療システム、リスク児の把握、定期健康診査などのシステムを理解する。
- 7) 小児のケアにおいて、身体面だけでなく、心理面および家族・社会環境の重要性を認識し、小児を全人的に把握する必要性を理解する。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
2: ディスカッション、ディベート 3: グループワーク 4: 実習、フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	12	1	火	3	発生、成長 (各種臓器の発生、出生後の発育)	小 児 科 学 明 白 石 秀 明	1
2	12	1	火	4	小児の栄養、中毒	小 児 科 学 治 加 納 優	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
3	12	1	火	5	社会小児科学（保健統計，母子保健，児童虐待，不登校，LGBTQ，貧困）	小 児 科 学 加 納 優 治	1
4	12	2	水	2	先天異常（遺伝，染色体異常，先天奇形）	小 児 科 学 鈴 村 宏	1
5	12	2	水	3	小児のリハビリテーション医療	リハビリテーション科 入 澤 寛	1
6	12	2	水	4	免疫（感染免疫・免疫不全症）	小 児 科 学 福 島 啓 太 郎	1
7	12	2	水	5	感染症 I（小児のウイルス感染症，結核症，非定型肺炎）	小 児 科 学 福 島 啓 太 郎	1
8	12	3	木	1	新生児学 I（総論，低出生体重児）	小 児 科 学 渡 部 功 之	1
9	12	3	木	2	消化器疾患Ⅲ（肝臓，胆嚢）小児外科より	外科学（上部消化管） 神 保 教 広	1
10	12	3	木	3	小児外科Ⅲ（鼠径，腹壁）	外科学（上部消化管） 神 保 教 広	1
11	12	4	金	1	新生児学Ⅱ（呼吸器，循環器疾患）	小 児 科 学 新 田 晃 久	1
12	12	4	金	2	新生児学Ⅳ（中枢神経系疾患，感染症）	小 児 科 学 新 田 晃 久	1
13	12	4	金	3	小児の画像診断	小 児 科 学 今 高 城 治	1
14	12	4	金	4	乳幼児の発達，成育小児科学	小 児 科 学 加 藤 正 也	1
15	12	4	金	6	発達障害，精神心理的疾患	小 児 科 学 今 高 城 治	1
16	12	7	月	2	小児外科Ⅰ（総論，頸，食道，肺，横隔膜）	外科学（上部消化管） 神 保 教 広	1
17	12	7	月	3	小児外科Ⅱ（上部消化管，悪性腫瘍）	外科学（上部消化管） 神 保 教 広	1
18	12	7	月	4	消化器疾患Ⅲ（肝臓，胆嚢）小児科より	小 児 科 学 佐 藤 雄 也	1
19	12	7	月	5	小児外科Ⅳ（下部消化器）	外科学（上部消化管） 神 保 教 広	1
20	12	7	月	6	運動発達障害（脳性麻痺など）	小 児 科 学 白 石 秀 明	1
21	12	7	月	7	先天代謝異常症	小 児 科 学 今 高 城 治	1
22	12	8	火	1	医学英語	小 児 科 学 白 石 秀 明	1
23	12	8	火	2	消化器疾患Ⅰ（水・電解質・胃腸炎・下痢）	小 児 科 学 加 納 優 治	1
24	12	8	火	3	消化器疾患Ⅱ（通過障害，腹痛）	小 児 科 学 萩 澤 進	1
25	12	8	火	4	感染症Ⅱ（細菌感染症，総論および臓器別の細菌感染症各論）	小 児 科 学 渡 部 功 之	1
26	12	8	火	5	新生児学Ⅲ（黄疸・肝・消化器・泌尿器・血液）	小 児 科 学 渡 部 功 之	1
27	12	8	火	6	小児の筋疾患	小 児 科 学 今 高 城 治	1
28	12	9	水	1	小児がんⅠ（主に総論）	小 児 科 学 福 島 啓 太 郎	1
29	12	9	水	2	小児がんⅡ（小児の固形腫瘍）	小 児 科 学 福 島 啓 太 郎	1
30	12	9	水	4	内分泌Ⅰ（成長，成熟，低身長）	埼 玉 ・ 小 児 科 小 山 さ と み	1

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブラーニング
31	12	10	木	2	内分泌Ⅱ（甲状腺，副腎，性分化）	埼玉・小児科 小山 さとみ	1
32	12	10	木	3	内分泌Ⅲ（やせ，肥満，糖尿病）	埼玉・小児科 小山 さとみ	1

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

講義への出席状況（2/3以上の出席を要する）。

客観的試験を行い，60点以上を合格とする。

なお，定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅲ」の評価として集計される。

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書：「標準小児科学 第9版」2022年，原寿郎 監修，高橋孝雄 他編，医学書院

「クリニカルガイド小児科：専門医の診断・治療」2021年，水口雅，山形崇倫 編，南山堂

#### VIII. 質問への対応方法

随時受け付ける。但し，事前に秘書を通じ，アポイントを取ること。

#### IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	◎
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	○
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	○
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	○

#### X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

中間試験の結果を講評・解説する。

#### XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（20分）：事前学習資料または講義資料を配信するので必ず予習すること。

事後学習（20分）：配信された講義資料で復習する。

#### XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊参照。